

「金沢大学卒業生アンケート」集計報告(第二次)

2011年2月 学友支援室

1. はじめに

2009年度に実施した「金沢大学卒業生アンケート」には、法文学部、文学部、法学部、経済学部、医学部医学科、医学部保健学科、薬学部及び工学部の卒業生から4,563通(回答率9.83%)の回答が寄せられ、昨年5月、「金沢大学卒業生アンケート」集計報告(第一次)として刊行し、併せてホームページにも掲載した。

今回、第一次報告書には調査中のため含めることができなかった教育学部分を加えて集計し、第二次分として教育学部のデータと併せて報告する。

2. 実施対象・時期・発送・回答数・回答率

教育学部卒業生へのアンケートは、2010年2月末～3月上旬にかけて12,665通を発送して実施し、概ね4月中に回答を受領した。その後12月頃までに届いた分を加えて、最終的には1,613通(回答率12.7%)の回答数となった。(発送後「所在不明」等により550通の返却があったため実質回答率は13.3%)

これにより、「金沢大学卒業生アンケート」は、全体として、発送数59,099通、回答数6,176通、回答率10.5%となった。

3. アンケート回答から見える「金大OB・OG像」

教育学部卒業生の回答が加わっても、一部の設問を除き、第一次報告が示した全体傾向に変化はなく、自分の身の丈(学力)に合う金沢大学を受験し、学友との親交を深め、お城の中の大学に誇りと郷愁を寄せ、卒業大学をいつも誇りとしている卒業生の姿がうかがえ、教育研究環境が悪い、就職支援が弱い、国際交流機会が少ない等の若干の不満はあったものの、70%近くが母校との「きずな」を求め、また寄附金等で母校を応援したいと回答している。また、母校が国内トップレベルの総合大学となることを願っており、「母校愛」あふれるメッセージにも揺るぎはない。

なお、第一次報告で紹介した「城内に金沢大学があった有形の証を残すべし」という意見は、旧城内キャンパスで学んだ教育学部卒業生の回答でも非常に多く寄せられたが、昨年11月6日、石碑「金沢大学誕生の地」を石川門附近に設置したことにより、その期待に応えることができた。

4. 全体の傾向と教育学部の特色

相対比率トップを占める事項のうち、「【設問4】在学当時不満に思っていたこと」では、第一次報告の全体集計は「教育研究環境が悪い(12%)」であったが、教育学部のデータが加わった結果、「就職支援等が悪い(13%)」が「教育研究環境が悪い(12%)」をわずかに上回った。

また、「【設問6-1】大学とのきずなを深めるためどのような取組みを望むか」では、教育学部においては「恩師・卒業生間の交流機会の提供」を望む声が24%とわずかの差で2位につけており、学部教員との距離が近い教員養成学部の気風が良く表れているといえよう。

また、教育学部は、「【設問9-2】支援したくない理由」で「大学の情報がない」が50%に上り、他学部に比べてひときわ高い水準を示したが、これは、教育(学部)同窓会が平成2年に設立後、アンケートを実施した時点まで20年間にわたって実質的な活動がなかったことが強く影響しているためと推察される。